

3 財務の概要

【決算の概要を説明するに当たり、以下のことについて概説いたします】

☆学校会計の特徴、企業会計との違いについて

学校法人活動と企業活動との根本的な違いは、学校法人は学校を運営しその目的である教育・研究を遂行することであり、企業活動は営利と社会貢献を目的とすることにあります。

このことにより学校法人活動や企業活動の決算時に作成する各種決算書類の内容並びに目的が異なってきます。

平成27年度から学校会計基準が変更となり、従来の「消費収支計算書」に代わり、「事業活動収支計算書」の作成が義務付けられました。これにより経常的及び臨時的収支に区分して収支状況を把握できるよう学校法人会計基準が改正されました。

現在の学校会計基準では「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

なお、各種計算書の概要については下記のとおりです。

①「資金収支計算書」

「資金収支計算書」とは当該年度の諸活動に関わる全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入・支出の内容を明らかにする計算書です。

更に、収入・支出を明確にすることで、支払資金の増減状況を表示しています。

その観点から「一般企業のキャッシュフロー計算書」に相当するものです。企業会計のキャッシュフロー計算書は、営業活動・投資活動・財務活動の活動内容毎に作成されています。

②「事業活動収支計算書」

「事業活動収支計算書」は前述のとおり、平成27年度に実施された学校法人会計基準の改正によって「消費収支計算書」から変更されたものであります。

その概要としては、当該年度の教育活動収支、教育外活動収支及びそれ以外の活動に対応する事業活動収入並びに事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した当該年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入・支出の状態を明らかにする計算書です。

教育活動収支とは経常的な事業活動収入・支出のうち、経常的な財務活動及び収益活動に係る活動を除いた活動の収入・支出をいいます。

教育活動外収支とは教育活動以外の経常的な財務活動及び収益事業に係る活動に係る事業活動収入・支出をいい、教育活動以外の経常的な活動に係る事業活動収入・支出をいいます。

特別収支とは特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な事業活動収入及び支出をいい、教育活動収支、教育活動外収支以外に係る事業活動収入・支出をいいます。

③「貸借対照表」

「貸借対照表」とは期末における「借方勘定」である資産勘定及び「貸方勘定」である負債・基本金・消費収支差額の各勘定の残額を表したものです。

「借方勘定」と「貸方勘定」の合計金額を表示していますので、財務状況の健全性をみることが出来ます。

学校法人会計の特徴的な勘定として、「基本金」があります。学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資金を継続的に保持するための金額です。本学園には目的別に第1号基本金・第3号基本金・第4号基本金があります。

(1) 決算の概要

①資金支計算書〔(2) 財務の経年比較の②「資金収支計算書」参照〕

平成28年度の収入合計額が1,862,482千円に対し、29年度の収入の部の合計は1,863,001千円で、519千円減額となりました。

なお、資金収支計算の過程で、前受金・未収入金等の決算期間調整により、次年度繰越支払資金（貸借対照表の現金預金残高）は、587,485千円で、前年度の繰越支払資金610,907千円と比較して23,421千円の減額となり、現金預金残高が減少いたしました。

当年度の施設・設備関係の主な支出は、こども園の園舎増築（3,200万円）、高校

の防球ネット・こども園のフェンス設置（720万円）、短大・高校・中学のICT機器備品購入（2,700万円）です。

②事業活動収支計算書〔(2) 財務の経年比較の④「事業活動収支計算書」参照〕

平成28年度の事業活動収入合計額が1,303,211千円に対し、29年度の事業活動収入合計は1,234,897千円で、68,314千円減額となりました。学生・生徒数が減少し納付金・経常費補助金が減額したためです。

平成29年度は、事業活動収入合計は1,234,897千円となっており、この額は借入金等学校法人の負債を含まない収入です。

一方、事業活動支出合計は1,243,169千円となっており、この額は当該年度に学校活動のために支出された経費をいいます。

その上から、事業活動収入から支出を控除した基本金組入前当年度収支差額（従来の帰属収支差額）が-8,272千円となりました。

また、29年度の翌年度繰越収支差額（従来の翌年度繰越消費支出超過額）は-1,701,719千円となりました。

今後は、「学園創立140周年記念事業」後の平成30年度からの中長期計画を早急に策定し、学生・生徒・園児の入学者増に伴う収入増加を目指し、教育内容の充実、教職員の質の向上、教育環境の充実、各種経費の削減等を教職員一丸となって取り組み、より一層の収支改善を図っていく所存です。

③貸借対照表の状況〔(2) 財務の経年比較の①「貸借対照表」参照〕

平成29年度末における負債及び純資産合計は4,785,445千円となり、前年度と対し31,320千円の減額となっています。

負債の部の合計は692,260千円で、前年度より22,958千円減額いたしました。主には高等学校校舎改築工事のための借入金返済によるものです。

基本金の残高は5,794,903千円で、第1号基本金が増加し、第3号・第4号基本金は同額で期間中の動きはありません。

貸借対照表の借方勘定である資産の合計額が4,785,445千円に対し、貸方勘定である負債・基本金の勘定合計額は6,487,164千円です。

この差額1,701,719千円が翌年度繰越収支差額（従来の翌年度繰越消費支出超過額）であり、28年度に比して、118,558千円増加しています。

本学園の財務状況について総括いたしますと、「学園創立140周年記念事業」の推進により、貸借対照表上の翌年度繰越収支差額が増加していることが喫緊の課題ではありますが、本事業推進を契機として、特色・魅力有る学校をすることにより、入学者増加はもとより教職員の心をつなげて佐賀龍谷学園の更なる発展に力を尽くす所存であります。